

平成 7 年 2 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

『八尾比丘尼』のこと

塩船観音寺といえば、その歴史の古いこと、また重要文化財の観音寺本堂」を初め、数々の文化財を伝えることで、市内屈指の名刹です。また現在ではツツジの名所として、5月のゴールデンウィークのころにはたくさんの観光客で賑わいますし、近年の初詣ブームで大晦日から元日の朝までの人出はそれはそれは大変なものです。

さてこの寺は、伝えによると若狭国（現福井県）の「八尾比丘尼」が関東地方に遍歴した際に、ここに千手観音を安置したのが始まりと伝えられます。

ところでこの「八尾比丘尼」とは、いったいどんなお方なのでしょうか。

これも言い伝えですが、「八尾比丘尼」は若狭国小浜の長者の娘で、なんでも子供の頃、人魚の肉を食べたために800才もの長寿を保ち、120才で出家した後、全国を遊行されたとつたえられる方です。

小浜といえば若狭国の国府が置かれたり、また国分寺が建立されるなど古代から北陸地方の中心的都市の一つとして栄えた町でした。

江戸時代には若狭湾の豊かな海産物が、若狭街道を通って京・大阪に運ばれる際の重要な拠点であったと共に、17世紀以後、西回り船路が盛んになると、北前船きたまえせんの船主などの豪商が活躍する商業の町として栄えました。

江戸時代、この地を納めたのは川越より移封された酒井氏で、小浜藩11万石でした。

現在小浜市に空印寺という曹洞宗の寺があり、かつては酒井家の菩提寺として大変栄えたようです。ところが酒井家の菩提寺であったことがかえって災いし他に檀家がなく、酒井家没落の今、寺の維持に苦慮しているということです。本堂裏手に林立する藩主酒井家歴代の墓石が、かろうじて盛時をしのばせてくれます。

実はこの寺、「八尾比丘尼」終焉の地と伝える寺でもあるのです。境内の一角には「八尾比丘尼」が死を迎えるために籠ったと伝える洞窟があります。

そこでこの寺はいま、「八尾比丘尼」をおおいに宣伝し、それをもとに多くの参詣客を呼び、寺

の復興・維持に役立てようという計画を実行中とのことでした。

現在のご住職にお聞きしたところ、この「八尾比丘尼」にゆかりのある場所は、全国で70も数えるそうです。もちろん青梅市の塩船観音もその一つです。

因みに、人魚を食べて800歳もの長寿を保った「八尾比丘尼」の最後についてですが、この洞窟にこもり食を絶って死を迎えたと伝えられています。

(文責 野村)

* 『鎌倉道を歩く』 案内 文化財保護指導員 角田 清美

日持 3月19日(日) 午前10時20分～午後3時30分

集合場所 東青梅駅北口

コース 上成木…榎木橋…佐藤塚…奥沢橋 (健脚向き)

持ち物 弁当・飲み物・地図など